

当院における糖尿病療養指導チームの役割

◎大石 祐¹⁾、久住 裕俊¹⁾、村越 大輝¹⁾、平松 直樹¹⁾
地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院¹⁾

<はじめに>

当院の検査部には糖尿病療養指導チームがあり、10名の臨床検査技師で活動を行っている。糖尿病療養指導チームの役割は、①糖尿病教室による集団指導、②自己血糖測定検査（SMBG 検査）③持続皮下グルコース検査（CGM 検査）④インスリンポンプ（CSII・SAP）である。

2021年5月に医療法等の一部を改正する法律が改正・成立し、タスク・シフト/シェアが推進されている。その中には、CGM 検査も含まれ、今後携わる臨床検査技師が増えることが予測される。今回、CGM 検査を中心に当院での運用・取り組みにおける活動詳細、役割等を報告する。

<活動内容>

- ① 糖尿病教室：糖尿病教育入院患者に対する集団指導
- ② 自己血糖測定検査：SMBG 導入指導、POCT 機器管理
- ③ 持続皮下グルコース検査：CGM 導入・解析
- ④ インスリンポンプ：CSII、SAP 導入・継続指導

<考察>

糖尿病関連機器は糖尿病治療を行う上で医師と患者にと

って有益な検査であるが、導入や指導に時間を要するため医師の負担が増加する可能性があるとされている。また、十分な患者教育が行われなければ効果が期待できない機器もある。

糖尿病療養指導チームとして多職種が連携し、機器の導入や指導を行うことにより、多方面から専門的な介入ができる。これにより、良質かつ適切な医療を効率的に提供できると考える。タスク・シフト/シェアの医行為に含まれるCGM 検査は臨床検査技師の専門性を生かし、臨床貢献できると考える。

<結語>

チーム医療におけるメディカルスタッフの役割は施設規模や特色によって様々である。法改正が行われ、各職種のタスク・シフト/シェアによる専門性を活かし活躍することで、医師の負担を軽減し、糖尿病療養指導の効率化が期待される。その一翼を臨床検査技師が担い、多くの患者に質の高い医療を提供することは十分に可能である。

054-247-6111（内線 8174）